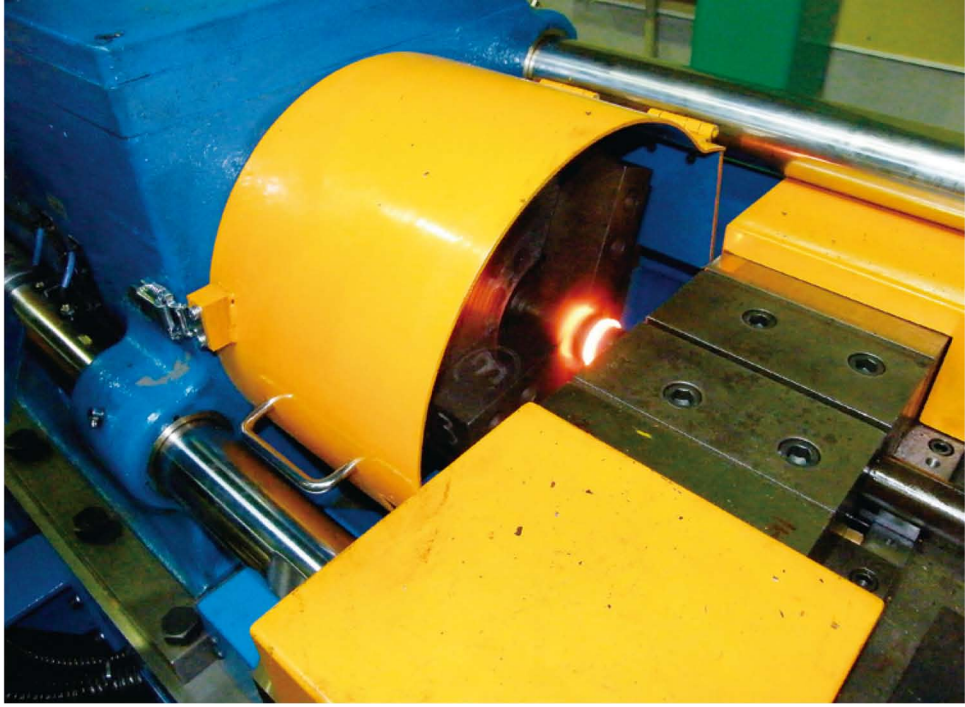


強度・硬度を極め
産業界に貢献

- 納期相談
- 企画力自信有
- オンライン技術
- メイドインジャパン
- 量産対応



金属の摩擦で発生する熱エネルギーと強圧力を利用した「摩擦圧接」

業務内容
日本で初めて
摩擦圧接を導入

メルティングポイントの異なる金属同士を圧接できる「摩擦圧接」を昭和40年代に導入した東洋摩擦圧接工業。紡績工場で用いられる糸巻き線機の円錐を始め、さまざまな生産分野で使われる工具等を数多く手掛けている。

「20数年前、リニアモーターカーの山梨実験線で用いられるアルミと銅を使用した部品を摩擦圧接で加工しました」と小田垣社長。摩擦圧接は、工程の短縮を実現しただけでなく、引っぱり強度の向上等メリットが多い。この優れた工法を産業界に広く浸透させる役割を長年担っている。

また、金属の表面だけを硬化し、部品寿命を伸ばす高周波焼入れも導入。これらの特殊金属加工に切削、歯切、研磨等の加工を組み合わせたものづくりを得意としている。

強み
金属加工技術の
組み合わせは多種多様

先発加工メーカーとして走り続けている同社は、摩擦圧接の材質組み合わせが50種類以上。耐摩耗性に優れた高周波焼入れの加工実績はおよそ1000品種類と豊富な実績を持つ。これらの技術の組み合わせ



加工製品群

合わせに、その他の金属加工を組み合わせた一貫生産で、形状500組以上という加工実績を誇る。「用途に応じ、必要な金属は、必要な部分だけ。そして、その金属の良さを引き出すことに力を注いでいます」と小田垣社長。熱処理技術や金属特性を活かした経験値の高い提案が顧客から喜ばれている。結果、工程の短縮によるコストダウン、生産性アップなどにも貢献している。

品質管理
大手に信頼される
徹底した品質管理

品質要求が厳しい自動車のステアリングシャフトを30年近く納入している同社は工程能力の高さはもちろん、品質管理にも余念がない。5Sの徹底はもちろん、6番目のSとして「識別」を掲げる。これは、要求事項に適合しない製品が誤って混在しないよう周知徹底しているからだ。また、エンジン関連部品の他、農機具やモーター・シャフト等の重要部品を多く製造している。

今後の展望
一貫生産体制を活かし
取引先の裾野を広げる

摩擦圧接と高周波焼入れの技を活かして生み出した製品が、現在の標準化につながっているケースが多く、定評を得ている同社。「本社では長年の得意分野を。堺工場では、一貫生産に際するため、研削加工設備の導入の他、シャフト完成品加工の充実も図っています」。このような対応力を活かし、異業種分野へ裾野を広げていきたいと考えてだ。

COMPANY PROFILE

東洋摩擦圧接工業株式会社

ISO 9001
ISO 14001



金属部品の寿命、性質を変える熱処理の技術に魅せられて半世紀。昭和43年に私が勤めていた会社の部署を独立させる形で創業しました。50年も前に手掛けたボール盤が磨耗せず、今でも中古市場に出ていることを知り、その技術の素晴らしさを実感しています。摩擦圧接や高周波焼入れの技を活かし、完成度の高い製品づくりをこれからも追求し続けます。

迅速機敏、正確無比、誠心誠意。

代表取締役社長 小田垣 春治さん



■主な事業内容

摩擦圧接、高周波焼入れ等熱処理、切削・歯切・研削、シャフトの製造・販売等

■主な取引先（納入先）

自動車部品メーカー、農機具メーカー、電機メーカー、印刷機メーカー等

住所／〒559-0011
大阪市住之江区
北加賀屋4-6-29
TEL／06-6686-3886
FAX／06-6686-1131
創業／昭和43年7月
設立／昭和43年7月
資本金／1,000万円
従業員／20名

<http://www.toyomasatsu.jp>